

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## Chapter 1 Recent tendencies in the teaching of Spanish to Japanese speakers

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2003-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福島, 教隆, Fukushima, Noritaka メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1031">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1031</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 第1章

## 日本語話者を対象とするスペイン語教育の動向

### Chapter 1

### Recent tendencies in the teaching of Spanish to Japanese speakers

福 島 教 隆  
Noritaka FUKUSHIMA

#### 1. 1. はじめに

この章では、わが国における現在のスペイン語（イスパニア語）教育のようすを概観する。まず第1. 2節で、大学におけるスペイン語教育の現状を報告する。第1. 3節では、大学以外には、どのようなスペイン語教育・学習の場があるかについて触れる。そして第1. 4節で、これまでに発表されたスペイン語教育に関する諸研究を紹介する。スペイン語教育に携わる人々の利便のために、ここには詳しい文献リストを掲げた。このリストが本章の骨格を成す。最後に第1. 5節では、スペイン語教育の世界的潮流にも言及して、今後の展望について述べる。

#### 1. 2. 大学におけるスペイン語教育

わが国でスペイン語が学校教育で取り扱われるのは、大学の段階が中心である。従って、本章ではまず、大学ではどのようなスペイン語教育が行なわれて

いるかを概観しよう。

スペイン語を学ぶ大学生は、かなりの数にのぼる。Rey (2000) (→第1.4節「表4」) の調査によれば、飛びぬけて受講者の多い英語に次いで、中国語、フランス語を学ぶ者がほぼ同数である。4位がドイツ語となる。そして、5~6位を韓国・朝鮮語とスペイン語とが争い、7位にロシア語が来るという。

### 1. 2. 1. 専攻としてのスペイン語

スペイン語を専攻する学科を備えた4年制大学は、2004年度は次の表のようになる見込みである。大学名アルファベット順で記した。また、人数は1学年あたりの定員を表している。

(表1) スペイン語専攻学科・コースを持つ大学

- a. 愛知県立大学外国語学部スペイン学科。昼間主コース40名、夜間主コース15名。[公立]
- b. 英知大学文学部国際文化・言語学科スペイン語専修コース。4コースから成る同学科全体で90名。[私立]
- c. 上智大学外国語学部イスパニア語学科。60名。[私立]
- d. 神奈川大学外国語学部スペイン語学科。75名。[私立]
- e. 神田外語大学外国語学部スペイン語学科。49名。[私立]
- f. 関西外国語大学外国語学部スペイン語学科。202名。[私立]
- g. 神戸市外国語大学外国語学部イスパニア学科。40名。[公立]
- h. 京都外国語大学外国語学部イスパニア語学科。76名。[私立]
- i. 京都産業大学外国語学部言語学科スペイン語専修。25名。[私立]
- j. 長崎外国語大学外国語学部国際コミュニケーション学科スペイン語スペイン文化コース。7コースから成る同学科全体で150名。[私立]
- k. 南山大学外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科。50名。[私立]
- l. 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科スペイン語専攻。昼間主コース40名、夜間主コース12名。[国立]
- m. 清泉女子大学文学部スペイン語スペイン文学科。60名。[私立]
- n. 拓殖大学外国語学部スペイン語学科。50名。[私立]

- o. 天理大学国際文化学部ヨーロッパ・アメリカ学科イスパニア語コース。6  
コースから成る同学科全体で200名。[私立]
- p. 常葉学園大学外国語学部スペイン語学科。50名。[私立]
- q. 東京外国語大学外国語学部欧米第二課程スペイン語専攻。70名。[国立]

(『2004年度用大学受験案内』(学習研究社、2003) および各大学ホームページによる)

このうち約半数の大学がスペイン語、またはスペイン語関連の大学院修士課程・博士課程を併設している。

昨今の大学の改組により、スペイン語専攻の学科にもさまざまな変動が生じているが、依然、かなり大きな学生定員を擁している。

スペイン語専攻の学科の教育の一例として、神戸市外国語大学外国語学部イスパニア学科の専攻授業を紹介する。同学科の学生は90分から成る専攻イスパニア語の授業を、1年次から3年次の間は週6コマ、4年次には週4コマ履修する。授業は年間30回行なわれる。うち2回は定期試験に充てられる。2003年度の授業は、次のような構成になっている。

(表2) 神戸市外国語大学の専攻イスパニア語の授業

### 【1年次】

- [1] 文法講読。担当：西川喬（前期）・福島教隆（後期）。AV。
- [2] 文法講読。担当：西川喬。
- [3] 文法講読。担当：木村榮一（A組）・山口忠志（B組）。
- [4] 文法講読。担当：宮本正美。
- [5] 文法講読。担当：野村竜仁。
- [6] 会話。担当：Patricia Rubio（A組）・Montserrat Sanz（B組）。

### 【2年次】

- [1] 講読。担当：木村榮一（前期）・福島教隆（後期）。AV。
- [2] 講読。担当：染田秀藤。
- [3] 文法。担当：西川喬。

- [4] 作文。担当：山口忠志。
- [5] 会話。担当：Montserrat Sanz (A組)・Nerea Serrano (B組)。
- [6] 会話。担当：Nerea Serrano (A組)・Patricia Rubio (B組)。

#### 【3年次】

- [1] 講読。担当：藪中 曜。
- [2] 講読。担当：長谷川信弥。AV。
- [3] 講読。担当：野村竜仁。
- [4] 作文。担当：西川 喬（前期）・福島教隆（後期）。AV。
- [5] 会話。担当：Ceferino Puebla (A組)・Nerea Serrano (B組)。
- [6] 会話。担当：Nerea Serrano (A組)・Montserrat Sanz (B組)。

#### 【4年次】

- [1] 講読。担当：木村榮一。
- [2] 講読。担当：長谷川信弥。AV。
- [3] 作文。担当：宮本正美。
- [4] 会話。担当：María José González (A組)・Ceferino Puebla (B組)。

（『神戸市外国語大学2003年度講義概要』による。科目名等は略記である。）

1クラスの学生数は40名だが、母語話者による会話の授業全てと、1年次の[3]は20名クラスになる。また1年次の[1]・[2]は同一の教科書を用いた連携授業である。これらの必修の科目の他に、「イスパニア及び中南米文化史」、「イスパニアの社会」、「中南米の社会」、「イスパニア語学概論」、「イスパニア語学特殊講義」、「イスパニア文学特殊講義」、「イスパニア文学史」、「ラテンアメリカ文学史」、「商業イスパニア語」、「研究指導」などの科目がある。学部の上には、修士課程（イスパニア語学専攻）と博士課程（文化交流専攻）が設けられている。

#### 1. 2. 2. 選択科目としてのスペイン語

語学系の学部に所属していてもスペイン語専攻ではない学生、あるいは語学系以外の学部に所属する学生を対象としたスペイン語教育も行なわれている。第二外国語として選択する学生が多いので、受講者の総数は、スペイン語専攻の学生を遥かに上回っている。上田（2000a）（→第1. 4節「表4」）によれ

ば、東京大学教養学部のスペイン語履修者は増加の傾向にあり、2000年度は約400名にのぼったという。また放送大学のように、在宅しながらスペイン語を受講する手段もある。

再び神戸市外国語大学外国語学部を例にとると、イスパニア学科以外の学生が兼修外国語としてイスパニア語を選択した場合、週2コマの階程を2年にわたって履修することになる。2003年度の履修者は、1・2階程合わせて学部157名、2部106名である。授業は各階程2クラス設けられている。

### 1. 2. 3. 教科書・学習書

教科書は、かつては宮城（1971）に代表される詳細な記述の小冊子が主流だったが、近年は教授内容を簡略化し、図版などを盛り込んだゆとりのある紙面の教科書が目立っている。一方では、小林・他（2001）のように専攻学生を対象とした精密で大部のものも編まれている。

第1. 2. 2項で述べたとおり、スペイン語を専攻としない履修者が多いことから、教科書編纂もこちらに力点がおかれる傾向がある。東京大学スペイン語部会（2000）は、その優れた一例である。

また最近は、スペインの出版社も日本むけの教科書を出版するようになった。Sánchez他（1998）、森本・他（2001）、Pinilla（2002）などがその例で、特に母語話者の教師にとって利用しやすい構成になっている。

学習書は、古くは笠井（1933）、高橋正武（1967）などが広く読まれたが、今では、枚挙にいとまがないほど多くの出版物が刊行されている。その中には、山田・他（1995）、江藤（2003）のように専門的な知識の得られる重厚な書物もあれば、小池（2002）のように長らく望まれていた分野の力作もある。

大学の教育現場の変化と呼応して、また映像・音声教材やコンピュータを用いた教材の急速な発達と相まって、現在、教科書・学習書は大きく変貌を遂げつつある。

（表3）教科書・学習書の例（執筆者名アルファベット順）

---

会田由・長南実（1961）『テーブル式スペイン語便覧』、評論社。

江藤一郎（2003）『基本スペイン語文法』、芸林書房。

- 原 誠 (1979) 『スペイン語入門』、岩波書店。
- 東谷穎人 (1991) 『入門講座スペイン語の散歩道』、白水社。
- 笠井鎮夫 (1933) 『西班牙語四週間』、大学書林。
- 小林一宏・他 (2001) 『詳解スペイン語』、上智大学出版会。(2003) 改訂・増補版。
- 小池和良 (2002) 『スペイン語作文の方法・構文編』、第三書房。
- Lobo, Félix・Anunciata Ereza・Lucía Lobo (1983) 『現代スペイン語入門』、大修館書店。
- 宮城 昇 (1953) 『基礎スペイン語文法』、白水社。
- \_\_\_\_ (1971) 『新基本スペイン文法』、白水社。
- 森本祐子・Inmaculada Penadés (2001) *Ejercicios de gramática española para hablantes de japonés* (日本語話者のためのスペイン語文法演習)、Arco/Libros, Madrid.
- 興津憲作 (1972) 『中級イスパニア語文法』、創元社。
- Pinilla, Raquel (大森洋子・三角明子・政田利奈・補注) (2002) *Español más claro* (もっと分かるスペイン語)、Sociedad General Española de Librería, Madrid.
- Sánchez, Aquilino・Ramón Sarmiento (Félix Lobo・大森洋子・廣康好美・訳) (1998) 『スペイン語基礎文法。規則と応用』、Sociedad General Española de Librería, Madrid. (原著 : *Gramática básica del español*, 1989)
- 瀬田栄之助 (1971) 『スペイン文化とスペイン語の研究』、大盛堂書房。
- 高橋覺二 (1993) 『テーブル式基礎スペイン語便覧』、評論社。
- 高橋正武 (1951) 『スペイン広文典』、白水社。
- \_\_\_\_ (1953) 『スペイン語文法読本』、白水社。
- \_\_\_\_ (1967) 『新スペイン広文典』、白水社。
- 東京大学スペイン語部会 (2000) 『CD-ROMで学ぶ初級スペイン語』、朝日出版社。
- 瓜谷良平 (1968) 『スペイン語の入門』、白水社。
- \_\_\_\_ (1989) 『改訂スペイン語の入門』、白水社。
- 山田善郎・他 (1995) 『中級スペイン文法』、白水社。

### 1. 3. 大学以外の場におけるスペイン語学習

大学以外でも、語学教育機関や国際交流団体の語学講座などでスペイン語教育が行なわれている。また、高校でスペイン語の授業を設けているところも幾つかある。

また、東京の日本エスパニヤ文化協会や、大阪の関西日本スペイン協会のような交流協会も、息の長い文化活動を続けている。資格試験としては、日本スペイン協会の行うスペイン語技能検定や、Instituto Cervantes（セルバン特斯協会。第1.5節を参照。）の実施する Diplomas de Español como Lengua Extranjera（スペイン語検定試験。略称DELE）などがある。

日本放送協会は、1952年以来ラジオ・スペイン語講座（1952年は短期集中。笠井鎮夫講師。1956年より講座開始。初年度は笠井鎮夫講師）を、また1967年以来テレビ・スペイン語講座（初年度は山田善郎講師。のち「スペイン語会話」）を放送し、スペイン語・スペイン語圏文化の教育に務めてきた。直接授業を受ける機会の乏しい地域に住む学習希望者にとって、通信教育の役割を果たしている。

また、定期刊行物としては、大学書林が月刊誌『月刊スペイン語』を1961年から十数年にわたって出していた。最近では、日本放送出版協会の発行するラジオ講座、テレビ会話のテキストの巻末の読み物が、その役割を代行していると言える。

昨今では、第1.2.3項で紹介したような学習書に加え、スペイン語圏のテレビ、ラジオ、映画、音楽、出版物、ホームページなど多方面の素材が、日本にいながらにして手の届くところに位置するようになった。スペイン語の学習は、意欲さえあればきわめて容易にできる環境が整っていると言える。

なお、現在は、以上のような一般のスペイン語教育とは別個の教育の必要性も生じている。それは、本来スペイン語を母語とする日本在住の人に対するスペイン語教育である。1990年代にはいって日本に住むスペイン語圏出身者の数が急増した。これはペルーからの約7万人を中心とする日系人の来日によるものである。1994年以来、スペイン語話者を対象とする *International Press, Edición en Español*（インターナショナルプレス・スペイン語版）という週間新聞が発行されているほどである。

しかし次世代は、日本での生活が長いため、スペイン語の能力の維持が難しくなった。第1世代の人々はこれを憂い、日本語教育と並行してスペイン語教育が行なわれることを望む声が高い。今後は、この方面の体系だった配慮が望まれる。

#### 1. 4. 日本語話者を対象としたスペイン語教育に関する諸研究

わが国でスペイン語教育に携わる教育者は、より良い授業、より効果的な教育法を求めて、長年にわたって努力を続けてきた。その試行錯誤から得られた成果が数多くの研究論文、書籍となって公開されている。本節では、この知見が今後広く利用されることをめざして、全般的傾向を述べた上で、諸研究の一覧を掲げる。

わが国におけるスペイン語教育がいかにあるべきかという総論については、Lobo, 上田、近松、石崎、大林文彦、酒井、Vásquez, Aser らが論じている。教育の実情や歴史に関しては、瓜谷良平、原、西川、浅香、中川、児玉、Rey、スペイン大使館などの綿密な報告がある。

教授法の改良については、坂東、興津、山口、上野勝広、落合、辻本、山本、沖原、北村、片倉、高橋節子、上野政夫らが力作を発表している。東京外国語大学では COE (Center of Excellence) プログラムに基づく「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」研究の一環として、新たなスペイン語教材を開発中である。その成果は、木越、結城の報告に記されている。また Sanz が 2002 年の口頭発表で行なった教授法と理論言語学を結ぶ提言は、本書の中で整った形で発表されている。

教授法の各論では、文法授業（四宮など）、講読授業（乾、江澤、泉水など）、作文授業（高橋覺二、乾など）、会話授業（Cárdenas, Vásquez など）、視聴覚教材による授業（竹村、松本、Rodríguez など）、商業スペイン語の授業（野村など）について、執筆者の経験に裏付けられた提言がある。日本とスペイン語圏の文化の違いによる問題については、Fernández Cobo、四宮、Valdivieso などの論考がある。

教授内容の各論では、発音（原、出口、田村、安富、川上、木村、山崎、

Martínezなど)、冠詞 (Ruiz Tinocoなど)、代名詞 (三好など)、前置詞 (岸など)、動詞 (青木・他、上田など)、文型 (寺崎など)、語彙 (高橋覺二、上野勝広、Llano他など) の考察がある。

第1. 2節で述べたとおり、スペイン語を専攻としてではなく履修する大学生数が多いところから、その授業に焦点をあてた研究も多い。有吉、渡瀬、大林多吉、秦、上田、上野政夫などが論じている。

また、近年はパソコンを取り入れる試みが盛んで、堀田、高橋覺二、布施、出口、瓜谷望・他、Ruiz Tinocoらがその成果を公にしている。

これらの諸研究では、伝統的な文法訳読法、構造主義に基づくパターンプラクティス法、会話の現場を重視するコミュニケーション法などの教授法の功罪が論じられた。また教材はどうあるべきか、それをどう提示すべきか、授業はどのように進めるべきか、現代の社会の要望や、学生の学習目的にどのように応えるべきか、あるいはそもそも大学でスペイン語を学ぶことの意義とは何か等々、さまざまな問題の所在が浮き彫りにされている。

一般に、教育者はそれぞれ固有の信念と独自の教授方法を持っているから、他の教育者的方式を無条件に受け入れることはできない。同一の問題について相容れない諸提案が行なわれている場合は、なおさらである。しかも教育の現場は、教える側と教えられる側が毎回新たに創造する共同作業であるから、ある方式を取り入れたからといって、理屈どおりの成果が得られるとは限らない。しかし少しでも達成度の高い授業をめざすには、日本の教育者がこれらの諸研究の成果を知り、問題意識を持つことが必要であろう。

#### (表4) 日本語話者を対象としたスペイン語教育に関する諸研究の文献一覧 (執筆者名アルファベット順)

---

青木文夫・堀川笙子 (1992) 「初級スペイン語における2つの過去の取り扱いについて——アスペクトの視点から——」、『福岡大学人文論叢』24-2。  
Amat, Edelmira (2002) "Reflexiones sobre la enseñanza de la historia del español" (スペイン語史の教育についての考察)、『上智大学外国語学部紀要』37。

有吉俊二 (1983) 「第二外国語としてのスペイン語教育の理念と実際」、『外国

- 『文学研究』57、立命館大学。
- 浅香武和 (1983) 「初太郎とスペイン語事始」、『言語』1983年11月号、大修館書店。
- \_\_\_\_ (1999) 「日本人とスペイン語の出会い」、『スペイン語の世界』(寺崎英樹・他・編)、世界思想社。
- \_\_\_\_ (2000) 「日本におけるスペイン語教育の創始者」、『イスパニア図書』3、京都セルバンテス懇話会。
- \_\_\_\_ (2002) 「亞墨利加でイスパニヤ語を学んだ日本人」、『イスパニア図書』5、京都セルバンテス懇話会。
- \_\_\_\_ (2003) 「放送によるスペイン語講座の誕生」、『イスパニア図書』6、京都セルバンテス懇話会。
- Aser, Francisco G. (1989) "Elementos que condicionan la enseñanza del español a extranjeros" (外国人に対するスペイン語教育の諸条件)、『広島修道大学論集 (人文編)』30-1。
- 坂東省次 (1981) 「基礎スペイン語教科書私案」、『京都外国語大学論叢』22。
- Benavides, Juan Miguel (1979) "Transferencia e interferencia entre japonés y español" (スペイン語と日本語の知識転用と干渉)、『語学研究』19、拓殖大学。
- Blanco Santos, María Cristina (2001) "El español en una universidad con vocación internacional. Universidad de Estudios Extranjeros de Kobe (Japón)" (国際性豊かな大学におけるスペイン語教育——神戸市外国语大学 (日本))、*Cuadernos Cervantes* 32, ELR. Ediciones, Madrid.
- Calderón de la Barca, Víctor (2001) "Enfoque comunicativo y uso combinado de las 4 destrezas con materiales didácticos complementarios: experiencias, reflexiones y propuestas" (コミュニケーション法と補助教材を利用した聴・話・書・読の能力の育成。その経験、反省と提案)、『言語研究』23、神奈川大学。
- Cárdenas, Abel (1992) "¿De qué quieren hablar los estudiantes en la clase de conversación?" (会話授業において学生は何について話そうとするか)、『イスパニカ』36、日本イスパニヤ学会。
- \_\_\_\_ (1994) "Actividades para el desarrollo de la competencia

- estratégica”（対話ストラテジー能力開発のための活動）、『アカデミア（文学・語学編）』56、南山大学。
- \_\_\_\_ (1995) “Kenshu Ryoko y las prioridades de los estudiantes japoneses: un reporte preliminar”（研修旅行と日本人学生の特性——予備報告）、『アカデミア（文学・語学編）』58、南山大学。
- \_\_\_\_ (1999) “Nosotros y el Departamento de Estudios Hispánicos: un proyecto de integración de destrezas”（我々とイスパニア学科——語学上達の試み）、『アカデミア（語学・文学編）』67、南山大学。
- Cassany, Daniel (1997) “La composición escrita en E/LE”（外国語としてのスペイン語教授法における作文）、『スペイン文化シリーズ5. 外国語としてのスペイン語（教授法）』、上智大学。
- \_\_\_\_ (1997) “Habilidades pragmadicursivas en la corrección oral entre iguales de textos escritos”（生徒間での書記文口述訂正における語用論的・談話論的能力）、『スペイン文化シリーズ5. 外国語としてのスペイン語（教授法）』、上智大学。
- \_\_\_\_ (1997) “El dictado”（ディクテーション）、『スペイン文化シリーズ5. 外国語としてのスペイン語（教授法）』、上智大学。
- 近松洋男 (1995) 「18歳人口減少と企業国際化時代のスペイン語教育」、『京都外国語大学イスパニア学科創設30周年記念論文集』。
- 出口厚実 (1996) 「スペイン語学教育・研究におけるWWWサーバの役割」、*Estudios Hispánicos* 21, 大阪外国語大学。
- \_\_\_\_ (2000) 「入門スペイン語教育における「音節」について」、『大阪外国語大学論集』22。
- 土井裕文 (2003) “El aprendizaje de las conjugaciones verbales en las segundas lenguas — experiencias en los laboratorios de PC y de CALL —”（第二外国語における動詞活用の習得—PC教室・CALL教室での実践例）、日本スペイン語学セミナー第23回例会（於静岡県伊豆長岡町）口頭発表。
- \_\_\_\_ (近刊) 「第二外国語における動詞活用習得—PC教室・CALL教室における実践例—」、『大阪産業大学論集（人文科学編）』112。
- Embajada de España en Japón (在日スペイン大使館) 編・刊 (1985) *El*

*español en Japón* (日本におけるスペイン語)。

Esquerra, Raimundo (中岡省治・訳) (1980) 「イスパニア語教育のための諸方法の分析」、『視聴覚資料の外国語授業への有効な取り入れ』、大阪外国語大学。

\_\_\_\_\_ (中岡省治・訳) (1981) 「構造練習問題の形式的分析に関する覚書」、『視聴覚メディアのシステム化と外国語授業の体系化』、大阪外国語大学。

江澤照美 (2000) 「「講読」から「読解」へ——スペイン語の授業改善の試み」、『愛知県立大学外国語学部紀要 (言語・文学編)』31。

Fernández Cobo, Carlos Vicente (1999) "Dificultades culturales de los alumnos japoneses" (日本人学生がぶつかる文化的問題)、*Actas del IX Congreso, Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera (ASELE)*, Universidade de Santiago de Compostela.

Fisac, Taciana (2000) "La enseñanza del español en Asia Oriental" (東アジアにおけるスペイン語教育), *El Español del mundo. Anuario del Instituto Cervantes 2000*, Alcalá de Henares.

布施温 (1990) 「スペイン語 CAI 動詞活用表の作成」、『愛知県立大学外国語学部紀要 (言語・文学編)』22。

\_\_\_\_\_ (1995) 「スペイン語音節の数と分布 1. BASIC による長大ファイル処理の試み」、『愛知県立大学外国語学部紀要 (言語・文学編)』27。

García, Pilar • Miwa Chiaki • Inui Takamasa (2003) "Dificultades de una dinámica enseñanza del español en Japón" (日本での活動的なスペイン語教育の難しさ)、Asociación Europea de Profesores de Español (欧州スペイン語教育者連盟) 第38回国際大会 (於 Alcalá de Henares, España) 口頭発表。

原 誠 (1964) "Actualidad y orientación para la enseñanza de español en Japón" (日本におけるスペイン語教育の現状と展望)、*Presente y futuro de la lengua española. Actas de la Asamblea de Filología del Primer Congreso de Instituciones Hispánicas* (Oficina Internacional de Información y Observación del Español (OFINES) 編), II, Ediciones Cultura Hispánica, Madrid.

\_\_\_\_\_ (1970) 「大学前期において使用するスペイン語教科書の内容はどうある

べきか』、『一橋論叢』63、一橋大学。

\_\_\_\_ (1985) 「日本人学生にスペイン語発音を指導する際の技術的問題点」、『東京外国語大学視聴覚教育センター年報』1。

\_\_\_\_ (1989) 「初めてスペイン語科教育法を1年間担当して」、『東京外国語大学視聴覚教育センター年報』4。

\_\_\_\_ (1994) "Método de enseñanza de la pronunciación española a los alumnos japoneses" (日本人学生に対するスペイン語の発音教授法)、*Actas del Segundo Congreso, Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera* (ASELE), Madrid.

\_\_\_\_ (1996) 「我がスペイン語教師生活40年を振り返って」、『白鷗大学論集』10-2。

秦 隆昌 (1994) 「開き直りの語学——第3外国語としてのスペイン語」、『香川大学一般教育研究』46。

堀田英夫 (1988) 「スペイン語発音表記」、『愛知県立大学外国語学部紀要(言語・文学編)』20。

\_\_\_\_ (1990) 「パソコン利用の外国語自習法」、『愛知県立大学外国語学部紀要(言語・文学編)』22。

\_\_\_\_ (1992) 「パソコン利用のスペイン語学習・教育」、『愛知県立大学外国語学部紀要(言語・文学編)』24。

\_\_\_\_ (1993a) 「スペイン語教育にパソコンを利用して」、『コンピュータ利用の外国語教育——CAIの動向と実践』(北尾謙治・編)、英潮社。

\_\_\_\_ (1993b) "Ventajas y desventajas de la utilización de ordenador en la enseñanza del español" (スペイン語教育におけるコンピュータ利用の功罪)、『ロマンス語研究』26、日本ロマンス語学会。

\_\_\_\_ (1996) 「日本語話者のスペイン語発話にみる形態・統語面の逸脱」、『原誠教授退官記念論文集』(原 誠 教授退官記念論文集刊行委員会・編・発行)。

\_\_\_\_ (1999) 「コンピュータの教育研究活用事例——CALL教室でのスペイン語教育——HTMLで作成した教材を利用して」、『コンピュータ&エデュケーション』7、Council for Improvement of Education through Computers。

\_\_\_\_ (2000) "Materiales didácticos audiovisuales del español elemental por HTML y su uso en la clase" (HTMLによるスペイン語初級視聴覚

- 教材と授業での利用)、『ロマンス語研究』33、日本ロマンス語学会。
- \_\_\_\_ (2002) 「スペイン語教育用基本語彙の地域差検証」、『愛知県立大学外国語学部紀要(言語・文学編)』34。
- 乾英一 (1988) 「スペイン語教授法の問題点(1) 命令法について」、『語学教育論集』3、早稲田大学。
- \_\_\_\_ (1989) 「スペイン語教授法の問題点(2) 「訳す」 意味について」、『語学教育論集』4、早稲田大学。
- \_\_\_\_ (1991) 「スペイン語教授法の問題点(3) 作文の位置付け」、『語学教育論集』6、早稲田大学。
- \_\_\_\_ (1993) 「学習者のおかす間違いと問題解決の方略——作文のエラー分析——」、『早稲田大学語学教育研究所30周年記念論文集』。
- 石崎優子 (1993) "Una propuesta para la enseñanza del español en Japón" (日本におけるスペイン語教育についての一提案)、『ロマンス語研究』26、日本ロマンス語学会。
- 糸魚川美樹 (2000) "La imagen de mujeres y hombres en los libros de texto – un análisis sobre los estereotipos sexuales en la enseñanza del castellano" (教科書の男女像——カスティリア語教育における性別による典型的な分析)、*Lingüística Hispánica* 23、関西スペイン語学研究会。
- 片倉充造 (1996) 「略式スペイン語文法ノート」、『外国語教育』22、天理大学。
- 木越勉 (2003) 「スペイン語発音ウェブ教材開発」、『スペイン語学研究』18、東京スペイン語学研究会。
- 川上茂信 (1983) 「/y/ の発音教育」、『スペイン語学研究』7、東京スペイン語学研究会。
- 木村匡康 (1985) 『スペイン語の発音矯正：日本人のスペイン語の音声的誤りと矯正法』、上智大学聴覚言語障害研究センター。
- \_\_\_\_ (1986a) 「音調聴覚論に基づく外国語の発音指導」、『言語研究』9、神奈川大学。
- \_\_\_\_ (1986b) 「スペイン語側面音1の音声的誤りとその矯正法」、*Sophia Linguistica* 20/21、上智大学。
- 岸大介 (1997) "Algunas observaciones sobre el uso de las preposiciones españolas en los estudiantes japoneses" (日本人学生のスペイン語前置詞

- の使用に関する考察)、*Revista de Estudios Hispánicos de Kioto* 5, 京都外国語大学。
- 北村光世 (1981) 「スペイン語の教材と教授法」、『イスパニカ』 25、日本イスパニヤ学会。
- \_\_\_\_ (1983) 「練習を中心とした教材作成の試み」、『イスパニカ』 27、日本イスパニヤ学会。
- 児玉悦子 (1996) 「江戸末期漂流民のスペイン語学習」、『国際学レヴュー』 8、桜美林大学。
- 近藤豊 (1982) 「報告・単語の指導ノート（前）——単語andarをめぐって」、『外国語教育』 8、天理大学。
- Lago Mediante, Pilar (1996) “Mezclas lingüísticas en los niños bilingües: ¿influye el input de los padres?”（二言語併用児童における言語混交——両親のインプットの影響か？）、『イスパニカ』 43、日本イスパニヤ学会。
- \_\_\_\_ (2000) “Hipótesis acerca de las mezclas lingüísticas aplicadas a una niña bilingüe en español-japonés”（スペイン語・日本語併用の少女における言語混交に関する仮説）、『イスパニカ』 44、日本イスパニヤ学会。
- Llano, Javier • Jordi Pagès • 上田博人 (1993) “Equivalencia léxica en el interlenguaje español-japonés: una aproximación translingual”（スペイン語と日本語の語彙の等価性——トランスリンガル・アプローチ）、『東京大学教養学部外国語科研究紀要』 41 – 4。
- Lobo, Félix (1993) “La enseñanza del español como comunicación”（コミュニケーションとしてのスペイン語の教育）、*Actas del Tercer Congreso de Hispanistas de Asia, Asociación Asiática de Hispanistas*, 東京。
- Martínez, Inmaculada (1995a) “Aproximación a las dificultades de aprendizaje en fonética y fonología españolas por parte de los alumnos japoneses”（日本人学生のスペイン語学習における音声・音韻的諸問題へのアプローチ）、*Lingüística Hispánica* 18, 関西スペイン語学研究会。
- \_\_\_\_ (1995b) “Análisis de errores en la producción escrita de estudiantes de español como lengua extranjera”（外国語としてのスペイン語を学ぶ

学生の書き言葉におけるエラーの分析)、『東京大学教養学部外国語科研究紀要』42-4。

\_\_\_\_ (1999) "Consciousness raising o la integración de gramática y comunicación en el ámbito japonés" (日本人学習者におけるconsciousness raising (文法・コミュニケーションの統合)), *Actas del IX Congreso Internacional*, Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera (ASELE), Universidade de Santiago de Compostela.

松本健二 (1998) 「スペイン語専攻のLL」、*AV Journal* 28、大阪外国語大学。

Miguel, Ana de (1996) "Planteamientos didácticos actuales del español como lengua extranjera" (外国語としてのスペイン語教育の現状における提言)、『慶應大学視聴覚教育研究室紀要』29。

三好準之助 (1997) "La enseñanza de los pronombres personales españoles a los japoneses" (日本人を対象としたスペイン語人称代名詞の教授法), *Boletín de ASELE* 16, Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera (ASELE), Madrid.

中川 清 (1992, 1993) 「明治期におけるスペイン語及びスペイン文学への関心」 I、II、『国士館大学教養論集』35、36。

\_\_\_\_ (1993) 「小泉八雲とスペイン語——明治期におけるスペイン語教育の一端」、『ラテンアメリカ時報』1993年10月号、ラテンアメリカ協会。

\_\_\_\_ (2000) 「旧陸海軍委託学生のスペイン語学習」、『駒澤大学外国語部論集』50・51。

Nakamichi, Shinji (1997) "Conciencia metacognitiva en la comprensión lectora" (読解のメタ認知意識)、*En homenaje al profesor Félix Lobo Iglesias, S. J.* (西語フォーラム・編)、上智大学。

西川喬 (2001) "Enseñanza y estudios del idioma español en Japón (seguido de la reseña de algunos trabajos hispánicos japoneses)" (日本におけるスペイン語教育と研究(付:日本のスペイン語研究の書評))、*Hispanica Polonorum* 3, Lodz, Poland.

野村俊樹 (1966) 「商業スペイン語のカリキュラム——貿易実務的側面」、『イスパニカ』11、日本イスパニヤ学会。

\_\_\_\_ (1969) 「商業スペイン語のカリキュラム——語学的側面」、『イスパニカ』

#### 14、日本イスパニヤ学会。

大林文彦 (1981) 「基礎スペイン語教育についての覚書」、『語学研究』 4、拓殖大学。

大林多吉 (1970) 「大学における語学教育 [第二語学]」、『横浜商大論集』 4、横浜商科大学。

越智直子 (1995) “A discourse analysis of oral communication in selected Spanish textbooks as a second language” (外国語としてのスペイン語の教科書における話し言葉の談話分析)、『清泉女子大学大学院人文科学研究科論集』 1。

落合佐枝 (1996) 「機能的アプローチを取り入れた授業の試み」、『原 誠 教授退官記念論文集』 (原 誠 教授退官記念論文集刊行委員会・編・発行)。

\_\_\_\_ (2003) “Los verbos del tipo *gustar* en la clase elemental e intermedia” (初級・中級授業における *gustar* 型動詞の扱い方)、日本スペイン語学セミナー第23回例会 (於静岡県伊豆長岡町) 口頭発表。

大岩 勉 (1998) 「ビジネススペイン語の授業レベルと目標設定上の問題点」、『アカデミア (文学・語学編)』 64、南山大学。

沖原雅美 (2000) “Utilización del cuaderno del estudiante como ayuda al aprendizaje” (学習補助としての学生のノートの利用)、*Cuadernos Canela* 12、日本・スペイン・ラテンアメリカ学会 (Confederación Académica Nipo-Española-Latinoamericana (CANELA))、南山大学。

\_\_\_\_ (2001) 「基礎スペイン語習得を目的とした大学ノートの利用」、『大阪国際大学紀要 (国際研究論叢)』 14。

興津憲作 (1973) 「イスパニア語教育教材一覧表」、『サピエンチア』 7、英知大学。

大阪外国语大学イスパニア語学科研究室 (1989) 「わが国におけるイスパニア語研究・教育の現状」、『わが国における外国語研究・教育の史的考察 (上) — 現状分析と回顧 —』、大阪外国语大学。

Puente Ortega, Paloma (1996) “Los estudiantes japoneses: ¿son un problema?” (日本人学生——彼らは厄介か?)、*Frencuencia-L* (Revista de didáctica del español como lengua extranjera) 1, Ed. Edinumen, Madrid.

- Rey Marcos, Felisa (1990) "Influencia del sistema educativo norteamericano en el sistema educativo japonés" (日本の教育制度に対する米国の教育制度の影響)、『アカデミア(人文・社会科学編)』52、南山大学。
- \_\_\_\_ (1998) "Umeko Tsuda, pionera de la enseñanza de idiomas en Japón" (日本における外国語教育のパイオニア津田梅子)、『アカデミア(文学・言語編)』64、南山大学。
- \_\_\_\_ (2000) *La enseñanza de idiomas en Japón* (日本における語学教育)、行路社。
- Rodríguez, Justino (1975, 1976) 「LLとスペイン語(1)・(2)」、『外国語教育』1、2、天理大学。
- Ruiz Tinoco, Antonio (1987) 「スペイン語の冠詞の教授法について」、『慶應義塾大学視聴覚研究室紀要』20。
- \_\_\_\_ (1997) "El correo electrónico y la enseñanza del español" (電子メールとスペイン語教育)、上智大学外国語学部紀要32。
- \_\_\_\_ (1998) "Las pizarras electrónicas y la enseñanza del español" (電子掲示板とスペイン語教育)、上智大学外国語学部紀要33。
- \_\_\_\_ (1999) "El debate como comunicación oral" (オーラルコミュニケーションとしてのディベート)、上智大学外国語学部紀要34。
- Saito, Hanako (1997) "Diferencias entre los que tienen mayor o menor confianza en sí mismos en cuanto al dominio de la lengua española" (スペイン語習得に自信のある者とない者の差異)、*En homenaje al profesor Félix Lobo Iglesias, S. J.* (西語フォーラム・編)、上智大学。
- 酒井優子 (1997) "Aprendizaje de las lenguas extranjeras en Japón" (日本における外国語学習)、*En homenaje al profesor Félix Lobo Iglesias, S. J.* (西語フォーラム・編)、上智大学。
- Sala Caja, Lidia (2000) "¿De qué manera utilizan los diccionarios los estudiantes japoneses?" (日本人学生の辞書の利用方法について)、『愛知県立大学外国語学部紀要(言語・文学編)』34。
- Sanz, Montserrat (2002) "La interlengua en el aprendizaje de L2: un análisis de los procesos de aprendizaje de español en estudiantes

- japoneses”（外国語習得における中間言語——日本人学生のスペイン語学習過程の分析）、関西スペイン語学研究会第260回例会口頭発表。
- 佐々木倫子（1998）「言語の対照研究と言語教育」、『日本語科学』13、国立国語研究所。
- 泉水浩隆（1992）「スペイン語文法項目の理解と表出」、『ロマンス語研究』25、日本ロマンス語学会。
- \_\_\_\_（2002）「マルチメディア教室を用いた中級スペイン語読解クラス」、『ロマンス語研究』35、日本ロマンス語学会。
- 清水憲男（1993）「日本におけるスペイン学」、『上智大学外国語学部シリーズ。地域研究のすすめ/スペイン・イスパノ・アメリカ編』、上智大学。
- 四宮瑞枝（1999）“El tratamiento de los elementos culturales en la enseñanza elemental del español — a través de la investigación de los textos del español”（初級スペイン語教育における文化的要素の扱い——スペイン語教科書を調べて）、*Lingüística Hispánica* 22、関西スペイン語学研究会。
- \_\_\_\_（2000）「大学のスペイン語文法授業の改善。「授業レポート」の効果と学習意欲の問題を中心として」、『スペイン語学研究』15、東京スペイン語学研究会。
- 寿里順平（1997）「共通テキスト——スペイン語科目の場合」、『人文論集』35、早稲田大学法学会。
- 高橋覺二（1986）「スペイン語教育基本語彙について」、『アカデミア（文学・語学編）』41、南山大学。
- \_\_\_\_（1987a）「スペイン語教育基本語彙と語学力の関係」、『アカデミア（文学・語学編）』43、南山大学。
- \_\_\_\_（1987b）「効率的なスペイン語教育のための動詞体系」、『イスパニカ』31、日本イスパニヤ学会。
- \_\_\_\_（1988）「日本人に苦手なスペイン語の表現——スペイン語の動的性格について」、『アカデミア（文学・語学編）』44、南山大学。
- \_\_\_\_（1993）「コンピュータによるスペイン語教育実践」、『電腦外国語大学』。
- \_\_\_\_（1994）「パソコンを教具としたスペイン語教育のひとつの試み」、『イスパニカ』38、日本イスパニヤ学会。

- \_\_\_\_ (1995) 「教具としてのパソコン——電子黒板とスペイン語作文」、『アカデミア (文学・語学編)』 59、南山大学。
- \_\_\_\_ (1998) 「一斉授業で個別指導を狙うスペイン語作文」、『アカデミア (文学・語学編)』 64、南山大学。
- \_\_\_\_ (2002) 「HTML 言語による補助教材」、『アカデミア (文学・語学編)』 71、南山大学。
- \_\_\_\_・伊藤ゆかり (2003) 「試験問題自動作成の試み」、日本イスパニヤ学会第49回大会 (於立命館大学) 口頭発表。
- 高橋節子 (1993) 「スペイン語教科書の諸問題」、『白鷗大学論集』 7-1。
- 高澤美由紀 (1998) "La interferencia de la lengua materna (el japonés) en el habla del segundo idioma (el español)" (母語 (日本語) の第二言語 (スペイン語) に対する干渉)、*Sophia Linguistica* 42 / 43, 上智大学。
- 竹村英郎 (1969) 「イスパニア語LL授業の動向」、『天理大学学報』 20。
- 田村美代子 (1979) "Un estudio de los sonidos del español y el japonés: problemas en la enseñanza de la pronunciación" (スペイン語と日本語の音声の研究——発音教育の諸問題)、『長崎外国語短期大学論叢』 22。
- \_\_\_\_ (1980) "Un estudio de los problemas del español y el japonés: problemas en la enseñanza" (スペイン語と日本語の諸問題に関する研究——教育の諸問題)、『長崎外国語短期大学論叢』 23。
- 寺崎英樹 (1978) 「スペイン語の基本文型」、『人文研究』 56、小樽商科大学。
- 辻本千栄子 (1995) 「スペインにおける語学学校の現状」、『流通科学大学論集 (人文・自然編)』 8 - 1。
- \_\_\_\_ (1996) 「スペイン語教育におけるグローバルな視野の育成」、『流通科学大学論集 (人文・自然編)』 8 - 2。
- \_\_\_\_ (2002) 「外国語授業におけるアクティビティ」、『流通科学大学論集 (人文・自然編)』 15 - 1。
- 上田博人 (1982) 「西語動詞活用の7基本形」、『宮城昇教授還暦記念論文集』 (東京スペイン語学研究会・編・発行)。
- \_\_\_\_ (1994a) 「日西対照研究とエラーアナリシスとトランスリンガル・アプローチ」、『日本語とスペイン語 (1)』 (国立国語研究所・編)、くろしお出版。

- \_\_\_\_ (1994b) “Aproximación translingual a la lengua española” (スペイン語のトランスリンガル・アプローチ)、*Revista de Estudios de Adquisición de la Lengua Española* 1, Universidad de Alcalá, Alcalá de Henares.
- \_\_\_\_ (1997) 「動詞と格標識：日本語とスペイン語のトランスリンガル分析」、『日本語とスペイン語（2）』(国立国語研究所・編)、くろしお出版。
- \_\_\_\_ (1998) 『パソコンによる外国語研究への招待——研究・教育・生活・空間・時間』、くろしお出版。
- \_\_\_\_ (2000a) 「第二外国語のスペイン語教育。授業方法と教材」、『CD-ROMで学ぶ初級スペイン語（教授用参考資料）』(東京大学スペイン語部会・編)、朝日出版社。
- \_\_\_\_ (2000b) 「第二外国語としてのスペイン語教育——文法の意識化と「授業レポート」——」、『スペイン語学研究』15、東京スペイン語学研究会。
- \_\_\_\_ (2001) 「スペイン語の多人数授業とマルチメディア教材」、『スペイン語学研究』16、東京スペイン語学研究会。
- \_\_\_\_ (2002) 「スペインの日本語教育と日本のスペイン語教育」、『日本語と外国語との対照研究10. 対照研究と日本語教育』(国立国語研究所・編)、くろしお出版。
- \_\_\_\_ (2003) “Tipos del léxico y enseñanza del español como segundo idioma” (語彙の型と第二言語としてのスペイン語教育)、*Cuadernos Hispanoamericanos* 631, Madrid.
- 上野勝広 (1994) 「スペイン語の機能的語彙の習得法」、『明治学院大学外国語教育研究所紀要』4。
- \_\_\_\_ (2001) 「CVCの“Pasatiempos de Rayuela”について——オンラインゲーム型練習（入門レベル）の一考察」、『駒澤大学外国語部論集』35。
- 上野政夫 (1965) 「第二外国語としてのイスパニア語の効用とそのカリキュラム」、『北九州大学教養部紀要』2。
- \_\_\_\_ (1966、1967) 「イスパニア語教授における言語学の適用（1）、（2）」、『北九州大学教養部紀要』3、4。
- \_\_\_\_ (1979、1980) 「大学における第2外国語教育の目標（1）、（2）」、『北九州大学教養部紀要』39、42。

- 瓜谷望・Juan M. Benavides・宮本博司 (1993) 「パソコン用スペイン語視聴覚教材の開発と運用報告 (外国語教育におけるCAIの試み)」、『拓殖大学論集』204。
- 瓜谷良平 (1967、1972) 「外国語教育と学習 (その1、その2)」、『海外事情』15、20、拓殖大学。
- \_\_\_\_ (1978) 「スペインにおける外国人のためのスペイン語講座」、『海外事情』25、拓殖大学。
- \_\_\_\_ (1985) "La enseñanza del español en Japón" (日本におけるスペイン語教育), *Actas del Primer Congreso de Hispanistas de Asia*, Asociación Asiática de Hispanistas, Seúl.
- \_\_\_\_ (1990) 「日本におけるスペイン語の学習、教育、研究の歴史」、『イスパニカ』34, 日本イスパニヤ学会。
- \_\_\_\_ (1993) "Observaciones sobre la enseñanza del español que se está efectuando en España y algunos problemas en el caso de estudiantes japoneses" (スペインにおけるスペイン語教育と日本人学生の問題点), *Actas del Primer Congreso Internacional sobre la Enseñanza del Español*, Centro Madrileño de Investigaciones Pedagógicas (CEMIP), Madrid.
- Valdivieso F., Patricio (1993) "Lenguaje, cultura e identidad: experiencias en la enseñanza del idioma español" (言語、文化、個性。スペイン語教育の体験から)、『東京大学教養学部外国語科研究紀要』41-4。
- Vásquez Solano, Claudio (1988) "La enseñanza del español como lengua extranjera" (外国語としてのスペイン語教育)、『関西外国語大学研究論集』47。
- \_\_\_\_ (1992) "Experiencias prácticas en niveles superiores de conversación: las encuestas. Primera parte" (上級会話授業の実際的経験: アンケート。第1部)、*Estudios Hispánicos* 17, 大阪外国語大学。
- \_\_\_\_ (2002) "Conversación y gramática" (会話と文法)、*Estudios Hispánicos* 27, 大阪外国語大学。
- 渡瀬 迪 (1991) "Acerca del estudio privado en la enseñanza de idiomas extranjeros. (1) El caso del curso elemental de español (segundo

- idioma extranjero) en nuestra universidad”（外国語教育について——本学初級スペイン語（第2外国語）の場合）、『鹿児島経済大学地域総合研究』19。
- \_\_\_\_\_ (1995a) 「パターン・ドリルを取り入れた授業の効果について——本学初級スペイン語（第2外国語）の場合」、『鹿児島経済大学地域総合研究』36。
- \_\_\_\_\_ (1995b) 「フリータイムにおける外国語のトレーニングについて——本学初級スペイン語（第2外国語）の場合」、『鹿児島経大論集』35-4、鹿児島経済大学。
- 山口恙正 (1991) 「スペイン語教材練習問題のタクソノミクス分析」、『放送大学研究年報』9。
- \_\_\_\_\_ (1993) 「スペイン語入門テキストに見られるモデル対話と練習問題との関係について」、『放送大学研究年報』11。
- \_\_\_\_\_ (1994) 「ラジオにおけるスペイン語基礎レベルの練習問題の限界について」、『放送大学研究年報』12。
- \_\_\_\_\_ (1999) 「スペイン語入門教材における文法シラバスのあり方について」、『放送大学研究年報』17。
- 山本純一 (1993) 「大学における第2外国語としてのスペイン語教育の可能性と限界——神奈川大学・山本教室の場合」、『言語研究』16、神奈川大学。
- \_\_\_\_\_ (1995) 「学習者の意見も考慮したスペイン語初級の授業創りに向けて——神奈川大学・山本教室でのアンケート結果をもとにして」、『イスパニカ』39、日本イスパニヤ学会。
- \_\_\_\_\_ (1996) 「日本人学生のためのスペイン語初級教材の研究（1）」、『イスパニカ』40、日本イスパニヤ学会。
- 山崎信三 (1991) 「スペイン語のアクセント教授法上の問題点（その1）」、『イスパニカ』35、日本イスパニヤ学会。
- \_\_\_\_\_ (1996) 「スペイン語のアクセント教授法の問題点——読み方の指針再考」、『立命館大学政策科学』。
- 安富雄平 (1990) 「初級スペイン語音声学教本（大学課程における個別言語音声学のシラバス・デザイン）」、『語学研究』61、拓殖大学。
- \_\_\_\_\_ (1997) 「スペイン語教育とSGAVメソッド」、『語学研究』86、拓殖大学。
- 結城健太郎 (2003) 「スペイン語eラーニング教材の開発——TUFS言語モジュ

ルにおけるダイアログモジュール』、『スペイン語学研究』18、東京スペイン語学研究会。

吉田秀太郎（1989）「発足当時の外大におけるスペイン語教育」、『わが国における外国語研究・教育の史的考察（上）——現状分析と回顧』、大阪外国語大学。

拙稿（印刷中）「イスパニア語接続法の教育方法について」、『神戸外大論叢』54-7、神戸市外国語大学。（\*本報告書第4章として執筆された論文）

---

## 1.5. 世界のスペイン語教育の潮流

### 1.5.1. アメリカ合衆国

本章の最後に、海外の事情を簡単に紹介する。まず、アメリカ合衆国は、アメリカ大陸のスペイン語圏諸国との関係が深く、また国内にスペイン語話者が多いため、スペイン語教育が盛んである。The American Association of Teachers of Spanish and Portuguese（略称 AATSP。米国スペイン語ポルトガル語教育者連盟）という、スペイン語教育者らが構成する大きな組織も存在する。同連盟が1917年から発行している季刊誌 *Hispania* には、毎号、文学・語学に関する論文と並んで、スペイン語教育を扱った論文が掲載される。また巻末には、スペイン語教科書や国内外の語学学校の広告が大きな紙数を割いて掲載され、裾野の広さをうかがわせる。

古くからRamsey (1894) *A Textbook of Modern Spanish* のような説明の行き届いた文法概説書や、Kany (1945) *American-Spanish Syntax*, 同 (1960) *American-Spanish Semantics*などのスペイン語学の研究書が編まれてきた。その蓄積がBull (1965) *Spanish for Teachers* のような、スペイン語教育を主題とした著作や、Bolinger他・編 (1973) *Modern Spanish* を代表とする、整った教科書となって結実する。その後も、内容や技術に改良が加えられた教材の開発が絶えず行われている。

米国のスペイン語教育は、スペイン語を母語としない者の持つ疑問点、学習上の難点に注意が向けられているので、わが国におけるスペイン語教育にとって参考となる点が多く、従来からその成果が活用されている。先述の

Bolinger 他 (1973) などの教科書は、かつて日本の多数の大学で採用され、大きな影響を与えた。

また *Hispania* は、日本のスペイン語教育者が読者としてだけではなく、高垣 (1984) や和佐 (1999)、同 (2000) のように執筆者の立場としても接する、馴染み深い刊行物となっている。

### 1. 5. 2. スペイン

しかし近年は、米国よりも、スペインが主導するスペイン語教育が活況を呈している感がある。これは世界のスペイン語学習者の増加、特に現地スペインに赴いてスペイン語を学ぼうとする者の増加による傾向であり、同時に、スペインがスペイン語スペイン文化を国際的に普及させようと努力してきた結果に他ならない。

スペインの大学には、一般の学部とは別に、外国人のためのスペイン語講座を設けているところが多い。さらに各地に数多くの語学学校があり、外国人学生がスペイン語を学びに来る。たとえば、伝統ある大学都市として知られるサラマンカは、大学に在籍する外国人や語学学校に通う外国人の姿が際立つ国際色に満ちた都市になっている。

教科書、辞書、参考書ばかりでなく、ビデオを中心としたサラマンカ大学 (Universidad de Salamanca) 他・編 (1990) *Viaje al español* (スペイン語への旅) のように本格的な総合教材が次々と開発された。これらは、スペイン国内での使用にとどまらず、輸出されるようになり、日本の大学でも広く使われている。

米国の教材が文法事項本位で、そこに文化的要素の紹介を加味する傾向があるのとは対照的に、スペインの教材は生きた会話の運用を重視し、文法事項は必ずしも「易から難へ」という順序にはならないという特徴がある。これは、学習者のおかれる環境の違いに対応している。非スペイン語圏では、一般に教室の中だけでしかスペイン語に接することのできないので、秩序だった素材提示をしないと、学習者が混乱する。一方、スペインに留学して学ぶ者は、常時スペイン語に囲まれており、必要に迫られて生活場面単位で表現を習得していくから、文法上の難易はさほど問題にならないのである。

学習者の増加に伴い、その教育を担当する専門家の需要が生じた。現在では、

多くの大学に、外国人を対象とするスペイン語教育の養成課程が設置されている。*Guía de universidades y carreras, Curso 2003-2004*, (大学案内2003～2004年度版)、*Gaceta Universitaria*, Madrid, 2003によれば、サラマンカ大学 (Universidad de Salamanca)、アルカラ大学 (Universidad de Alcalá)、バリヤドリード大学 (Universidad de Valladolid)、バルセロナ大学 (Universidad de Barcelona)、ラ・ラグナ大学 (Universidad de La Laguna) には、「外国語としてのスペイン語教育」を専攻する修士課程がある。マドリード大学 (Universidad Complutense de Madrid) では、博士課程で「外国語としてのスペイン語教育にむけた応用言語学」が専攻できる。またマドリード自治大学 (Universidad Autónoma de Madrid) には、「ブラジル人教師のためのスペイン語教育科」が修士課程に設けられている。これは、近年ブラジルでスペイン語教育が義務化したことによる。

この分野には多くの出版社が参入し、ある小説の題名をもじった E. Alonso (1994) の概説書や、Cerrolaza 他 (1999)、Cervero 他 (2000)、Vázquez (2000) などの教科書が編まれている。

更に、外国人を対象とするスペイン語教育の専門家が作る学会も生まれ、盛んに活動するようになった。その代表は、Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera (略称 ASELE。外国語としてのスペイン語教育学会) である。1988年の第1回大会以来、毎年大会が開かれており、年々発表者も増えている。その成果は大会論文集に収められている。原 (1994)、大森 (1998) のような日本人研究者の発表や、Fernández Cobo (1999), Martínez (1999) といった日本におけるスペイン語教育に関する発表もある。

それ以外にも、Congreso Internacional sobre la Enseñanza del Español (国際スペイン語教育会議) や Asociación Española de Lingüística Aplicada (スペイン応用言語学会) などの会議録が発行されている。2005年には Federeación Internacional de Asociación de Profesores de Español (スペイン語教育者学会国際大会) の開催が企画中だとのことである。

またスペイン語スペイン文化の国際的普及を目的として1991年に創設されたセルバンテス協会 (Instituto Cervantes) の活動も特筆に値する。ヨーロッパという単位でも、Asociación Europea de Profesores de Español (欧洲スペイン語教育者連盟) という組織がある。近年は欧洲以外の会員も増え、

García他 (2003) のように日本におけるスペイン語教育を扱った発表もあり、2004年3月の第39回国際大会は、名古屋の中京大学で開催される予定である。

逐次刊行物の分野では、*Frecuencia L.* (Edinumen社) や *Cuadernos Cervantes* (ELR. Ediciones社) のような外国語としてのスペイン語教育専門誌が発行されている。前者は1996年の創刊で、Puente Ortega (1996) のように日本人学習者を取り上げた文も見られる。後者には、Blanco Santos (2001) による神戸市外国語大学イスパニア学科の紹介記事が掲載されている号もある。

さらに、アルカラ大学 (Universidad de Alcalá) の*Revista de Estudios de Adquisición de la Lengua Española* (スペイン語習得研究論集)、アリカンテ大学 (Universidad de Alicante) の*Estudios de Lingüística* (言語学研究) 別巻1 *Tendencias y líneas de investigación en adquisición de segundas lenguas* (第二言語習得研究の動向) などの刊行物もある。前者には、上田 (1994b) による日本語話者を対象とした研究が掲載されている。

以下に、文献のリストを掲げる。

(表5) スペイン・米国で発行された外国語としてのスペイン語教育に関する文献リストA. 学会誌、逐次刊行物 (書名アルファベット順))

---

*Actas de la Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera (ASELE)* :

- [1] *Actas de las Primeras Jornadas Pedagógicas de ASELE* (Fente Gómez, Rafael • Antonio Martínez González • José Andrés de Molina Redondo 編), 1990, Granada刊 (Madridにて1988年開催の第1回大会論文集。論文16点掲載)。
- [1bis] *Actas del Primer Congreso Nacional de ASELE* (Fente Gómez, Rafael • José Andrés de Molina Redondo • A. Martínez González 編), 1990, Universidad de Granada, Granada刊 (Granadaにて1989年開催の第1回全国大会論文集)。
- [2] *Actas del Segundo Congreso Nacional de ASELE. Español para extranjeros: Didáctica e investigación* (Montesa Peydró, Salvador •

Antonio Garrido Moraga), 1994, Málaga 刊 (Madrid にて1990年開催の第2回大会の論文集。講演2点、論文45点掲載)。

- [3] *Actas del Tercer Congreso Nacional de ASELE. El español como lengua extranjera: De la teoría al aula* (Montesa Peydró, Salvador • Antonio Garrido Moraga 編), 1993, Málaga 刊 (Málaga にて1991年開催の第3回大会の論文集。講演2点、論文39点掲載)。
- [4] *Actas del Cuarto Congreso de ASELE. Problemas y métodos en la enseñanza del español como segunda lengua* (Sánchez Lobato, Jesús • I. Santos Gargallo 編), 1994, Sociedad General Española de Librería, Madrid 刊 (Madrid にて1993年開催の第4回大会の論文集)。
- [5] *Actas del Quinto Congreso Internacional de ASELE. Tendencias actuales en la enseñanza del español como segunda lengua* (Montesa Peydró, Salvador • P. Gomis Blanco 編), 1996, Málaga 刊 (Santander にて1994年開催の第5回大会の論文集)。
- [6] *Actuales tendencias en la enseñanza del español como lengua extranjera. Actas del Sexto Congreso Internacional de ASELE* (Rueda, M. • E. Prado • J. Le Mon • F. J. Grande 編), 1996, Universidad de León, León 刊、2巻 (León にて1995年開催の第6回大会の論文集。講演3点、論文50点掲載)。
- [7] *Lengua y cultura en la enseñanza del español a extranjeros. Actas del Séptimo Congreso de ASELE* (Celis, Angeles • José Ramón Heredia 編), 1998, Universidad de Castilla-La Mancha, Cuenca 刊 (Almagro にて1996年開催の第7回大会の論文集。講演3点、論文45点、ワークショップ3点、セミナー13点掲載)。
- [8] *La enseñanza del español como lengua extranjera: Del pasado al futuro. Actas del Octavo Congreso Internacional de ASELE* (Moreno Fernández, Francisco • María Gil Bürmann • Kira Alonso 編), 1998, Universidad de Alcalá, Alcalá de Henares 刊 (Alcalá de Henares にて1997年開催の第8回大会の論文集。講演3点、論文86点、ワークショップ1点掲載)。
- [9] *Español como lengua extranjera: Enfoque comunicativo y*

*gramática. Actas del Noveno Congreso Internacional de ASELE* (Jiménez Juliá, Tomás • María Carmen Losada Aldrey • José F. Márquez Caneda 編), 1999, Universidade de Santiago de Compostela, Santiago de Compostela 刊 (Santiago de Compostela にて1998年開催の第9回大会の論文集。講演3点、論文96点、ラウンドテーブル3点掲載)。

[10] *Nuevas perspectivas en la enseñanza del español como lengua extranjera. Actas del Décimo Congreso Internacional de ASELE* (Franco Figueroa, Mariano • Cristina Soler Cantos • Javier de Cos Ruiz • Manuel Rivas Zancarrón • Francisco Ruiz Fernández 編), 2000, Universidad de Cádiz, Cádiz 刊、2巻 (Cádizにて1999年開催の第10回大会の論文集。講演3点、論文76点、セミナー28点掲載)。

[11] *¿Qué español enseñar? Norma y variación lingüísticas en la enseñanza del español a extranjeros. Actas del Undécimo Congreso Internacional de ASELE* (Martín Zorraquino, María Antonia • Cristina Díez Pelegrín 編), 発行年記載なし、Universidad de Zaragoza, Zaragoza 刊 (Zaragoza にて2000年開催の第11回大会の論文集。講演3点、論文66点、ラウンドテーブル66点、ワークショップ22点掲載)。

*Actas del Congreso de la Lengua Española*, 1994, Instituto Cervantes 編・刊、Alcalá de Henares (Sevilla にて1992年開催)。

*Actas del Congreso Internacional de la Asociación Europea de Profesores de Español* (Horányi, Mátyás 編), 1980, Academia de Ciencias de Hungría, Budapest, Hungría.

*Actas del Primer Congreso Internacional sobre la Enseñanza del Español* (Sagaró Faci, Matilde 編), 1993, Centro Madrileño de Investigaciones Pedagógicas (CEMIP), Madrid 刊 (Madrid にて1992年開催)。

*Actas del Primer Congreso Nacional de Lingüística Aplicada*, 1983, Asociación Española de Lingüística Aplicada 編・刊 (Universidad de Murcia にて1983年開催)。

*Catálogo de materiales para la enseñanza del español como lengua extranjera*, 1996, Instituto Cervantes, Alcalá de Henares.

- Catálogo de materiales informáticos para el aprendizaje del español como lengua extranjera*, 1997, Instituto Cervantes, Alcalá de Henares.
- El Español en el mundo. Anuario del Instituto Cervantes*, Instituto Cervantes, Alcalá de Henares.
- Estudios de Lingüística, Anexo 1. Tendencias y líneas de investigación en adquisición de segundas lenguas*, 2001 (Pastor Cesteris, Susana • Ventura Salazar García 編), Universidad de Alicante, Alicante.
- Frecuencia L.* (Revista de Didáctica del Español como Lengua Extranjera), Editorial Edinumen, Madrid.
- Hispania*, The American Association of Teachers of Spanish and Portuguese (AATSP), Georgetown University, Washington, D.C.
- Revista de Estudios de Adquisición de la Lengua Española*, Universidad de Alcalá, Alcalá de Henares.

---

(表6) スペイン・米国等で発行された外国語としてのスペイン語教育に関する文献リストB. 研究・教科書 (執筆者名アルファベット順)

---

- Alonso, Encina (1994) *¿Cómo ser profesor/a y querer seguir siéndolo?* (教師になる方法と教師であり続ける方法)、Edelsa, Madrid.
- Alonso, Martín (1949, 1968<sup>2</sup>) *Español para extranjeros* (外国人のためのスペイン語)、Aguilar, Madrid.
- Blanco Santos (2001) → 第1. 4節「表4」。
- Bolinger, Dwight 他・編 (1973) *Modern Spanish*, Harcourt Brace Jovanovich, New York.
- Bull, William E. (1965) *Spanish for Teachers*, The Ronald Press, New York.
- Calvi, Maria Vittoria • Félix San Vicente 編 (1998) *La identidad del español y su didáctica* (スペイン語の特質とその教育)、Mauro Baroni, Viareggio, Italia.
- Casanova, Lourdes (1998) *Internet para profesores de español* (スペイン

- 語教師のためのインターネット)、Edelsa, Madrid.
- Cerrolaza, Matilde • Oscar Cerrolaza (1999) *Cómo trabajar con libros de texto* (教科書の使い方)、Edelsa, Madrid.
- Cervero, María Jesús • Francisco Pichardo Castro (2000) *Aprender y enseñar vocabulario* (語彙の学び方と教え方)、Edelsa, Madrid.
- Fernández Cobo, Carlos Vicente (1999) → 第1. 4節「表4」。
- García, Pilar • Miwa Chiaki • Inui Takamasa (2003) → 第1. 4節「表4」。
- García Santa-Celicia, Alvaro (1995) *El currículo de español como lengua extranjera* (外国語としてのスペイン語のカリキュラム)、Edelsa, Madrid.
- González Nieto, Luis (2001) *Teoría lingüística y enseñanza de la lengua* (言語理論と語学教育)、Cátedra, Madrid.
- 原 (1994) → 第1. 4節「表4」。
- Jiménez Juliá, Tomás (1990) “La enseñanza del español para extranjeros en la universidad española” (スペインの大学における外国人のためのスペイン語教育)、*Actas de las Primeras Jornadas, Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera (ASELE)*, Granada.
- Kany, Charles E. (1945) *American-Spanish Syntax*, The University of Chicago Press.
- \_\_\_\_ (1960) *American-Spanish Semantics*, University of California Press, Berkeley.
- Marcos Marín, Francisco (1983) *Metodología del español como lengua segunda* (第2言語としてのスペイン語の教育法)、Alhambra, Madrid.
- Martinell Gifre, Emma • Mar Cruz Piñol (1998) *Cuestiones del español como lengua extranjera* (外国語としてのスペイン語の諸問題)、Edicions Universitat de Barcelona, Barcelona.
- Martínez, Inmaculada (1999) → 第1. 4節「表4」。
- 大森洋子 (1997) “Las oraciones impersonales como estrategia de cortesía” (丁寧さのストラテジーとしての無人称文)、*Actas del Séptimo Congreso, Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera (ASELE)*, Universidad de Castilla-La Mancha, Cuenca.
- Penadés Martínez, Inmaculada 編 (1999) *Lingüística contrastiva y*

*análisis de errores (español-portugués y español-chino)* (対照言語学とエラー・アナリシス (スペイン語・ポルトガル語、スペイン語・中国語))、Edinumen, Madrid.

Polo, José (1976) *El español como lengua extranjera. Enseñanza de idiomas y traducción* (外国語としてのスペイン語。語学教育と翻訳)、Sociedad General Española de Librería, Madrid.

Puente Ortega, Paloma (1996) → 第1.4節「表4」。

Ramsey, Marathon Montrose (1894) *A Textbook of Modern Spanish*, Robert K. Spaulding 校訂 (1956), Holt, Rinehart and Winston, New York.

Resigh Long, Donna (1999) "Methodology and the teaching of Spanish in the 20<sup>th</sup> century: retrospective and bibliography", *Hispania* 82-3, AATSP.

Ruiz-Fornells, Enrique (1977) "Algunas observaciones sobre la enseñanza del español en el extranjero" (外国でのスペイン語教育に関する考察)、*Hispania* 60, AATSP.

Santos Gargallo, Isabel (1993) *Análisis contrastivo, análisis de errores e interlengua en el marco de la lingüística contrastiva* (対照分析・エラー分析・対照言語学から見た中間言語)、Síntesis, Madrid.

高垣敏博 (1984) "Subjunctive as a marker of subordination", *Hispania* 67, AATSP.

上田博人 (1994b) → 第1.4節「表4」。

Universidad de Salamanca・Radio Televisión Española 編 (1990) *Viaje al español* (スペイン語への旅)、Santillana, Madrid.

Vázquez, Graciela (2000) *La destreza oral* (上手な話し方)、Edelsa, Madrid.

和佐敦子 (1999) "El subjuntivo y la modalidad" (接続法とモダリティ)、*Hispania* 82, AATSP.

\_\_\_\_\_ (2002) "A lo mejor y el subjuntivo" ('多分' と接続法)、*Hispania* 85, AATSP.

### 1. 5. 3. 結び

大韓民国のスペイン語研究者・教育者が組織する韓国西語西文学会は、わが国の日本イスパニヤ学会に比べて歴史が新しいものの、『西語西文研究』という大部の機関誌を年2回も刊行するなど、精力的な活動を行なっている。その機関誌に発表された韓国におけるスペイン語教育に関する諸研究は、我々に参考になり、また大いに刺激を与えてくれる。同国ではさらに Federación Asiática de Profesores de Español (アジア・スペイン語教育者連盟) という国際的な組織を企画中だともきく。

わが国におけるスペイン語教育が、日本固有の状況にかなった柔軟な姿勢をとるべきであることは言うまでもない。しかし同時に、この節で述べたような世界的潮流を常に意識して、その成果を取り入れると同時に、国外にむかってもますます提言を行い、改良と新時代への対応を続ける努力を怠ってはならない。筆者もその分野の一隅に身を置く者として、この心がけを保とうと考えている。